

平成12年秋季特別展

卑弥呼の音楽会

ま・つ・り・の・ひ・び・き

大阪府立弥生文化博物館

考古学セミナー

●会場＝1階ホール ●30分～1時間(午後2時～午後4時)(受付午後1時～)
全回参加者には修了証と記念品を贈呈致します

10月22日[日]

1 京大教授 水野正好
「倭国女王卑弥呼
～音色と楽器の世界～」

10月29日[日]

2 国立歴史民俗博物館名誉教授 小島美子
「楽器からみた日本文化」

11月12日[日]

3 同志社大学歴史民俗学 辰巳和弘
「まつりの響きと古代の心」

11月26日[日]

4 副校長 金関 恕/学芸員
「楽器にみる卑弥呼の時代」

本館学芸員による展示解説
毎週日曜日と祝日(午前11時～特別展示室)

特別コンサート

●会場＝1階ホール ●522室170名(当日先着順)
●コンサート時間＝午後2時～午後3時30分(受付午後1時～)

10月15日[日]

5 人形浄瑠璃音楽座・三味線 竹澤宗助
野澤喜一郎
「今にいきる伝統楽器
～文楽三味線の魅力～」

11月5日[日]

6 京大 雅楽研究会
「雅楽 ～その悠久の
調べと復原琴～」

11月19日[日]

7 島崎音梅短期大学 松本玲子
「タイムカプセル
～卑弥呼からのメッセージ～」

10月7日(土) — 12月3日(日)

主催＝大阪府立弥生文化博物館／読売新聞大阪本社／読売テレビ
後援＝財団法人大阪21世紀協会 協賛＝財団法人文楽協会／摂女子短期大学／国際交流サービス

http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/
●開館時間／午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) ●休館日／毎週月曜日(但し10月9日[月]開館、10日[火]休館)
●入館料／個人＝一般600円・高大生400円、小中学生・65歳以上・障害者手帳を持つ方は無料 団体＝一般480円・
高大生320円(団体は20名以上) ●所在地／〒594-0083 和泉市池上町443 電話＝0725-46-2162
●交通／JR阪和線「徳太山」駅下車徒歩7分／南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分 ●駐車場／普通車80台、大型バス7台無料

ま・つ・り・の・心・び・き
卑弥呼の音楽会

現代人にとって、音楽が生活の中でいかに大切であるかは、だれもが感じているところです。古代中国の生活のしきたりを定めた礼楽制度でも、音楽は人々の心をなごませるのに特に重要とされています。今回の特別展は、人々が音楽をかなでる楽器によって、古代のまつりを考えようとするものです。また、古墳に並べられた楽器を持つ埴輪や世界の民族楽器も同時に展示します。卑弥呼がまつりごとの中心におき、かつ、楽しだとみられる音楽の世界を復原し、古代人の心に迫ります。

Himiko's
 Musical Extravaganzas
 — Sounds of her Festivals —

1 **中国の楽器**

中国の楽器をもとに、日本の楽器の源流を考え、その本質を探ります。



1 青銅の鈴 [戦国時代頃 中国]

2 **弾く楽器—琴—**

各地から発見が相次ぐ琴をとりあげて、古代のまつりを考えます。



1 琴(復原品) [古墳時代中期 滋賀県服部遺跡]



1 鈴の付いた帯と衣服を着た埴輪
 [古墳時代後期 群馬県竊貫観音山古墳]



1 琴を弾く埴輪
 [古墳時代後期 群馬県朝倉出土]
重要文化財

4 **埴輪のまつり**

楽器を持つて立ち並ぶ人物埴輪から、古墳のまつりを再現します。

3 **振る・たたく楽器—銅鐸—**

弥生文化独特の銅鐸がもつ楽器としての側面に焦点をあてます。



1 銅鐸(桜ヶ丘5号銅鐸)
 [弥生時代中期 兵庫県桜ヶ丘]
国宝

1 銅鐸とこれを鳴らす舌
 [弥生時代中期 和歌山県太田黒田遺跡]



主な展示品

- 愛知県八王子遺跡の出土品や 国宝・重要文化財の銅鐸
- 初公開の数々の琴や笛
- 埼玉県舟山古墳出土品などの楽器を持つ埴輪
- 中国古代の楽器や世界の民族楽器
- 各種の復原楽器や、その音の再現

国宝4点、重要文化財5点を含む
出品総数約350点

期間中
 一部展示
 替えます。